

神戸のディテール

Detail of KOBE 〈20〉

石阪 春生

写真／杉尾友士郎





New life lady in Kobe

素朴な陶器に 魅せられて

南部 昭恵さん

〈光印刷株式会社 南部圭三氏夫人〉

十年近くになるご主人の陶器を愛する趣味に影響を受けて、「よくわからないのだけれど…」といひながらやみつきになってしまったそうです。

地方へ行って、欲しかったものを買い求めたりすると、家に着くなりなにをおいてもその包みを開けるときの喜びはひとしおとか。

六古窯の落ちつきのある形、色あい、素朴な味に魅かれて、大小さまざまな陶器に埋もれてご満悦の奥様です。

コトブキのある街は、みんな神戸のとなり街。



お菓子の  コトブキ

神戸・大阪・京都・東京

FANTASY KOBE12月



星が 墜ちた 昨宵...

ダイヤ・エメラルド



宝飾店
Tajima
タジマ

元町2丁目 TEL 331-5761代表



Thoughtful Gentleman

オーソドックスな
ヨーロッパスタイル

黒田 豊さん

〈喫茶レストラン パロン代表取締役〉

濃紺にイエローの細いストライプ、派手はでしくない形と色をこのむ黒田さんの趣味はさりげないヨーロッパスタイルだ。

「ウネはぼくの体型をよく知っていてくれるので安心してまかせられるんですよ」と、ブラウンのシックなパロンの表門に立つ黒田さん。さりげないおしゃれが男らしい。

世界のオシャレをおとどける

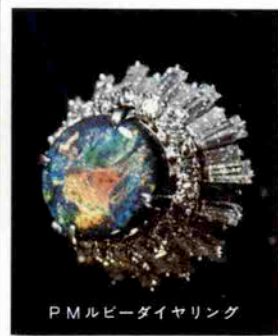
ウネ

神戸元町1丁目 TEL 331-3112

東急百貨店 渋谷店・日本橋店
札幌店・吉祥寺店



花のある宝石店



トア・ロード

タカタ宝石

〒650

神戸市生田区北長狭通2-161-1

tel 078・391・4105

☆タカタ宝石生花シリーズ

ちりばめられた紅樹

川口豊昇 小原流家元教授

◎本社●神戸市兵合区旗塚通6-3-10 TEL.231-3321◎本社外商部●神戸市兵合区旗塚通7-1-7旗塚ビル TEL.231-3321◎パールファーム神戸
●神戸市灘区鶴甲3-12-41 TEL.871-9289◎さんプラザ店●神戸さんプラザビル3F TEL.391-4085◎大阪支店●大阪市南区安堂寺橋通3-38-2
南大和ビル TEL.253-0165◎大阪プラザ店●大阪ホテルプラザ内 TEL.458-2419◎福岡支店●福岡市中央区赤坂1-11-13大福ビル TEL.781-5161
●カタログご希望の方は本社外商部までご請求下さい。



あなたの真珠はパールマークのお店で

ご愛顧20年 田崎真珠



喪服に真珠が似合うのは、真珠のもつ哀しさとやさしさの故である。

喜びの服に似合うのは、深い幸せの響きのためである。

人の手で育てられる唯一の宝石だから、真珠には人の情が移ってしまう。

田崎真珠 TASAKI PEARLS



パールのブローチ、七宝ダイヤモンドK14 ¥550,000

1974年度パールデザインコンテスト入賞作品

デザイン 福留洋美

これは神戸を愛する人々の雑誌です
あなたのくらしに楽しい夢をおくる
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ
これは神戸っ子の手帖です。

12月号目次

表紙／小磯良平(部分)

セカンドカバー／旅のスケッチ／西村 功

神戸っ子'74／滝内美鈴／東伸一矩 7

ある集い／黒人研究の会 11

コウベスナップ 13

神戸っ子ギャラリー<12>／山口牧生 14

神戸のディテール<20>／石阪春生／カメラ・杉尾友士郎 16

わたしの意見／斎田定次 25

随想三題／八代欽一／田中美穂／新条洋 27

ある集いその足あと／黒人研究の会 30

神戸情話<6>／幻のストリートガール／矢崎泰久 32

神戸・東京／東京アレルギー／横尾忠則 34

ずいそう／非芸術的なレポート／河口龍夫 36

いんたびゅう／<ウェストサイド>は最高の 38

ミュージカル／雪村いづみ

座談会／関西弁の芝居をやろうよ 41

田辺聖子／筒井康隆／夏目俊二

経済ポケットジャーナル 47

神戸のアーバンデザイン・モダン 48

リビング／水谷順介

技術ジャーナル／諸岡博規 50

53 特集 神戸と音楽①<クラシック音楽>座談会／紫田 仁／

松本幸三／朝比奈千足／寺井昭子

59 特集 神戸と音楽②<ポピュラー

音楽>座談会／末広光夫／野崎謙二／武

内正文／玉利茂樹

64 特集 神戸と音楽③音楽地図とガイド

66 特集 神戸と音楽④日本の音と洋舞の出会い

69 今月の催しものご案内

70 ファッション情報

76 神戸百景／カメラ・小山 保

82 ファッションアイ／カメラ・杉尾友士郎

103 PEOPLE OF KOBE／吉野丈夫／文・野口武彦

110 神戸を福祉の町に／共同募金／橋本 明

112 心にのこる OLD KOBE／あおばしげる

114 奇術師アフリカの旅／福岡康年

116 動物園飼育日記／亀井一成

120 もうさんをめぐる神戸っ子達／たかはしもう

125 アンデル線／岡田 淳

128 ニューヨークからのたより／竹田洋太郎

130 淀長立見席／淀川長治

132 女体百景／H・ジュニア／え・浅野俊一

134 ぴっといん

137 百店会だより

138 ポケットジャーナル

143 連載小説 まだ遅くない／葉月一郎／え・小西保文

160 ポエムドコウベ／鈴木 漢

162 海船港／キャンベラ号地中海をゆく<最終回>

カメラ米田定蔵／藤原保之／立山 章 目次作品／植松重二



'74 MERRY CHRISTMAS
SANTA CLAUS USED TO BRING US
HAPPY DAYS

東京・キンザ

San-ai 三愛

三宮店 センター街さんプラザビル2・3F
AM11:00~PM8:00 ☎391-6861

☆わたしの意見

坂道に名称を

済田 定次

〈毎日新聞社神戸支局長〉



たしか、十三年前だったと思います。日時や場所は忘れてしまいましたが、神戸市内のとある坂の中腹から幼児を乗せた乳母車が、ころげ落ちた事故が発生しました。母親が道端に乳母車を止め、近くの家で用事をしているとき、乳母車がズルズル後退し、加速していったのです。当時、デスクにいて第一報を聞いたとき、私は「坂の名前ぐらいいはあるだろう。おかしいじゃないか、調べてくれよ」などと若い取材記者にカミナリを落したものです。しかし、いくら私がハッパをかけても、坂の名前はなかったのです。

ことしの秋。やはり神戸の坂道で、ボヤの消火にかけつけた消防車が、ズルズル後退し、幼児がはねられてけがをしました。その事故を報道した各新聞を、注意深く読んだものですが、どの新聞にも「坂の名称」が出ていません。《坂のある町》などといわれながらも、神戸の坂に、名称がついていないのは、不思議です。

おかしいじゃないか、というわけで、私は近ごろ、神戸で生まれ、神戸で育った《神戸っ子》に、誰かれの区別なく聞いて回っています。同じ人に、同じ質問をたたみかけ、「この前、聞いたぞ」などといわれる始末です。タクシーに乗っても「この坂はなんていうの」と、必ず聞くことにしていますが、運転手からののは「知りませんねえ。そういえば、神戸の坂には、名前はないですねえ」と、同じ答えがかえってきます。帰宅しても、暇があれば神戸の市内地図を広げ、にらめっこしています。坂の数はいくつあるのだろうか。この坂にふさわしい名称はないだろうか、などと考えたりしているのです。

地図をみると、がく然とします。それは、六甲連山が迫まる狭い平地のと真ん中が山手幹線、中央幹線、国道、阪神高速道路に占領され、その東西のクルマの専用道路に、南北の坂に通じる「生活道路」が寸断されているからです。坂道に名称がほしいですね。その名称をみんなで考えることが、神戸の暮らしの道を守ることになると思っています。



まよ
考えなければ...
あなたも
だれもかも



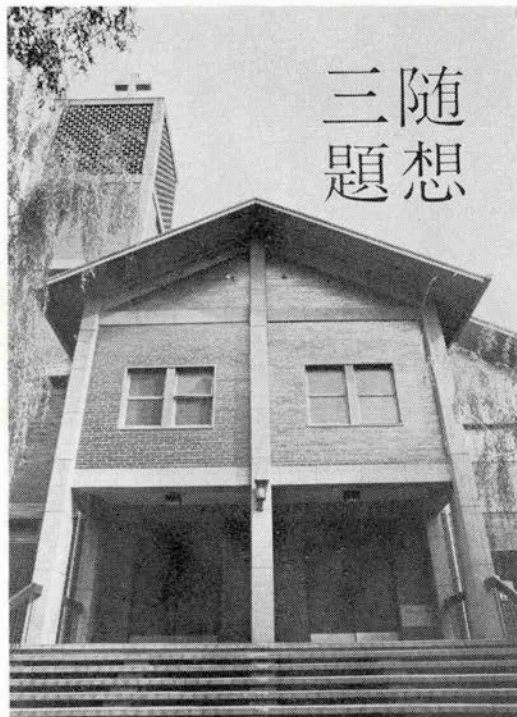
書家 望月美佐先生書

住友信託銀行

もとまち

大丸西向い ☎321-1131(代)

随想 三題



セント・ミカエル大聖堂

神戸っ子に 心の平安を

八代 欽一

〈聖ミカエル大聖堂 主任司祭〉



うまい水！ イザヤ・ベンダサンでなくても今日の神戸っ子は金銀を払ってでも欲しいだろう。赤道をこしても腐らぬ水を求めて、幕末の頃から英国船が神戸沖に停泊するようになった。かくして神戸村という一漁村に居留地と港ができる。勝海舟がこの神戸で海軍

操練所を開設、のちに商船大となり、やがて関西の土地にありながら、関西的な要素の少ない新開地神戸が前進する。

スエズ運河より東洋に行くほど、英国人の宗教心はうすらぐと英国人自身が自嘲するが、その英国人司祭が日本人のために明治九年、来神、神戸で働きを始めた。明治七年、阪神間に、十年に大阪京都間に鉄道開設という時代背景であれば、初期の伝道には苦勞したことであろう。初期の教会は英会話を教えたり、紅茶のうまさを日本人に教えた。

ヨコハマはメリケンの、コウベは英国調である。うちの教会員が住んでいる北野町の古めかしい洋館はその面影を残す。遊び好きの

英国人は避暑のためにケープルも自動車もない時代に六甲山を切り開いた。ジェームス山、トア・ロッド、摩耶山のアゴニー坂など遊ぶためには苦勞する英国人は地名を残している。「犬と現地人入るべからず」とする英国人感覚も日本では通用しなかった。こうして今日、神戸人は英国人の切り開いたところで楽んでいる。

明治十一年、フオス師は乾行義塾を開校、英語による初・中級教育をはじめて神戸の貿易人を養成した。この外人学校が今日のセント・ミカエル・スクールである。

明治二十五年、英国教会は聖ミカエル教会の近所に松蔭女学校を開校、今日まで神戸を中心に卒業生は明るい女性像を示して来た。もちろん神戸女学院、関西学院も特色を発揮しながら神戸文化に貢献して来た。

考えて見ると軍隊もなく、貿易港湾都市として発展したコウベは恵まれていた。西洋人は珍しくないから神戸人には外人コンプレックスもなく、自然に外人とつきあえる。おまけに神戸は食物がよろしい。私は今まで二度東京転任をこわった。うまいパン屋、ソーセージ屋、そしてローストビーフを食わせる店、食道楽には有難いコウベなのである。

教会と神戸！ 今さらあらたま

つたいいかたをしなくても、教会は神戸人の目に映つる。うちの教会は戦前に映画ロケの舞台になったこともある。各分野のデザイナーやモデルさんは明るい神戸、美しいコウベに夢をかけて使命感に燃える。教会も同様に一人でも多くの人に「明るく美しく」生きてもらいたいと働きをしている。十二月ともなった。再び明るい美しいクリスマス喜びを多くの神戸人とともに迎えたいと思っ

ている。物価高の時勢だけに、心の平安（シャローム）を神戸人にもってもらいたいと望むのは夢であろ

うか。私は神戸の将来に希望をかけているのである。

お酒 わが友

田中 美穂

（追記）



花は黙って咲き

黙って散って行く

そして再び枝にかえらない
けれどその一時一処に

この世のすべてを托している

一輪の花の声であり
一枝の花のまことである

永遠にほろびに生命の喜びが
悔なくそこに輝いている

もう幾年前のことだろう……。

そう、あれはちょうど今頃の季節だった。ある思いを胸に京都の古寺をたづね歩いている折のこと、うす暗い廊下のとある壁にやぶれ穴でもふさぐかのように何かが書かれた小さな紙切れがはりつけられていた。

それがこの詩であ
った。

暮れかかる庭に立ちこの詩を何度も、何度も胸の内でもくり返しているうちふと一ツの何かを見つけた様に思った。

神戸へ立ちもどり冷えきっている身と心をあたためんとお酒を口にした。なんとこの時のお酒の美味しかったことか、そしてこの私をやさしくあたたかくすつぽりとつつんでくれた。

以来私とお酒の切っても切れない長いお付き合いが始まっ

た。

キャンパスに良く向う様になったのもこの時からだ。

この時期の私のお話し相手友達
はキャンパスとそしてお酒。

それが最近ではキャンパスとよく仲たがいをする様になってしまった。それは私自身の芸術的感情のぶさからだと思っ

ている。精神的にもよく孤独感孤立感におちいる。そんな時、そつとなくさめ話を聞いてくれるのはわがともそれはお酒。

カット／田中美穂



でもこの親愛なるともに時々ふり廻されることがある。

いったん気を許すともうなかなか私の言うこと等聞き入れてくれない。

「今日はもう帰りましたよう」

「いや、まだ時間が早いからもう少しだけ」

「酔った様だわ、帰らなくてはいけません」

「まだそんなに酔ってなんかいいからもう少し」
と言う具合なのである。こうなるとまず午前サマ。あくる日はおかげで頭はガンガンもう絶交、もうあなたとは絶交よと、いくと言ったことか。

でも夕日が落ちる頃になると、又逢って語らずにはおれなくなるわがとも。

老人

その明暗

新条 洋

（サイコロジスト）



雨は港の岸壁に容赦もなくたたきつけられた。すごい雨脚である。私は午後一時の船に遅れない

ために急いだ。濡れた衣服が身にまつわりついて不快である。突堤は見送り客、老人、青年、役員、乗組員などのごった返していた。雨の中での出航であった。テープは数十本だけで昨年に比べて見送りが少なかった。

今年の九月、老人の船の出航風景である。二泊三日、別府へ向けて約五百人を乗せた兵庫ことぶき丸は、老人の夢をのせて神戸を離れた。ふりむくと、神戸の山並が雨にかすんでほんやりと見えている。六甲の山並だけ見ていると船が進んでいるという感じがしない。

船内のスピーカーから集会の知らせがあった。私のこの船での任務は「心の健康」について話をすることであった。しかし、公的な仕事を離れて、私は老人と起居を共にして、老人についての心理的、身体的なことなど学びたいと計画していた。船内でのスケジュールは細かに立てられていた。講演会、演芸会、討議会、老人体操など盛りたくさんである。

これらの体験を通じて、私の感じたことを要約してみよう。

一つには、「老化」いわゆる「年寄りくささ」には個人差があるというものであった。青年であつても、老人的なひとりよがりの考え方をする人、逆に老人であつても、青年のような意気とフアイトをもっている人があること。

例えば、自分の感情を素直に相手に伝え、その結果、恋を成就させるか、傷ついて悩むか、恋一つその過程をとってみても、老人と青年にはそれほど心理的な面では差がないのではなからうか。

また、生きている世の中を悲觀的にみたり、将来に失望して「俺たちに明日はない」と考えるか、または、希望にみちた未来を夢に描いて生きるか、このことでも、老人と青年との間にはつきりとした区別はつけられないのではないか。

むしろ、街で会う青年の姿に悲觀的、厭世的なイメージをいだくのは私だけであらうか。

三日間を通じて、私が日頃いっていた、暗くて、消極的な老人観は根底からくつがえされてしまった。

ただ楽しかった船旅の間中、いつも頭の中から離れなかったのは、食事、排排、着脱衣など介助なしでは一日も暮せない「ねたきり老人」や身よりがなくて、ただ日をおくっているだけの独居老人、貧困にあえいで死においやられる老人など、どうしても避けて通れない、きびしい現実の姿であった。

□ある集いその足あと

黒人研究の会

小林信次郎

〈会誌「黒人研究」編集長〉

神戸は五目めしである。いま目の前に五目めしがあるとしよう。炊きたての暖かさ、立ち昇る湯気はより良い明日を目指す神戸っ子の熱気であろうか。湯気越しに散見できる人蔭の朱はさしずめ異人館である。神戸に同化しようとしながら、なおノスタルジャーを捨てきれぬ外人の想念か、明治大正の西洋へのあこがれを住居にも結晶させた神戸っ子の情念がそこに燃えている。椎茸の黒は旧家であろう。因襲と伝統の重みに耐えて存在を示しているが、いかにもその持味を維持することの困難、悩みが滲みでている。かしわは寺院や教会だろうか。その形は見た



アフロ・アメリカ文化講座の会場

目に一樣ではないが、強烈な味覚を添加する。ごほうは港の船である。さまざまなインタレストに形を与えてくれる。大根はコンクリートの街、団地である。實在感を持たせないのに、全体の骨格を決定し、つやや潤いを持たせている米は勿論神戸っ子であるが、これらのさまざまな材料が混合し、融合しあって一つの持味を出す。まさしく神戸的と言わざるをえない

この神戸に生れ、神戸で育ち、今では全国規模の会となっている黒人研究の会も、何だかこのような持味を特徴としている。先ず第一に会員の研究領域が多岐に亘っている。文学、語学、歴史、社会学、音楽等々であるうえに、地域もアメリカ、アフリカはもとより南米からカスピ海に及んでいる。第二に会員の職業の多様さ。研究会という性格上、教師が多いが、学生、会社員、公務員、主婦なども参加している。第三に研究方法の多様さである。ここに述べる方法とは実証研究とか理論研究とかといったアブローチの仕方だけを言っているのではない。黒人問題——換言すれば差別問題——そのもののメカニズムを方法的に究めることである。だが会全体としては政治運動とは一線を画している。第四に能率を考えて、事務局制をとっているが、会長を設けず

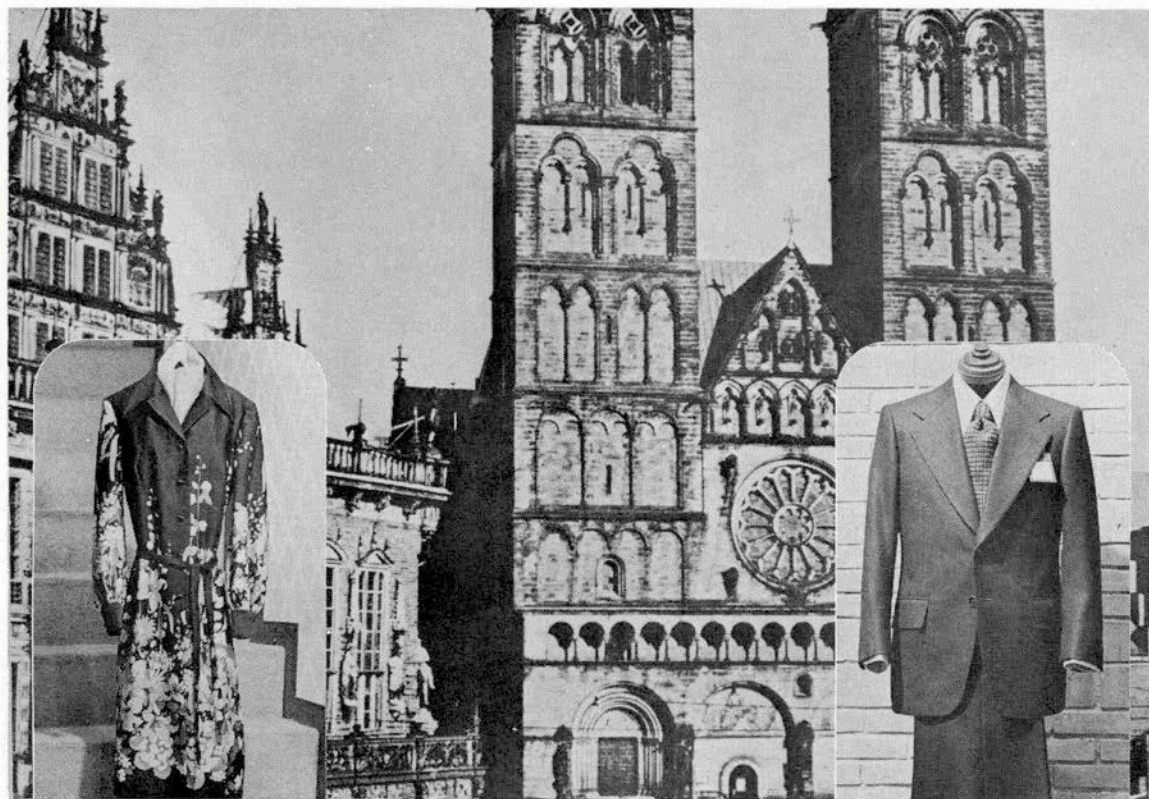
全員相互の持ち味が会の運営に反映しやすいように、集団運営方式をとっている。第五に、月例会と会誌とにより研究成果、資料、意見等の発表や交換を行なっている。

五目めしの味はその材料に負うところが多く、コックの腕は主として、風味とかかわるだけであるわれわれの会も二十年たつと会員が固定しだして、材料の変わらぬ五目めしをいつも食べるようになってきた。これは伝統の成立とも言えるが、メニユーの固定化、マンネリ化とも考えられる。たまには材料の違う五目めしも食べたいアラカルトの食事も用意する必要があるだろう。他の人に試食してもらうことも必要であろう。このように考えてスタートしたのが本年の九月から来年の九月まで一年間、毎第四土曜午後三時から、神戸市立六甲勤労市民センターで開催しているアフロ・アメリカ文化講座である。会員が丸一丸となつてねじり鉢巻よろしく用意しているわれわれの五目めしを是非試食しに来て頂きたいと願っている。あきらめぬうちに、材料を変え、コックを変えて新鮮で魅力的な味を失わない神戸の味に近づければと希望する会員も多い。会員に神戸っ子が多いからであろうか。

■黒人研究の会・連絡場所
灘区土山町神戸外国語研究所内
☎85114254

Merry Christmas!

ヨーロッパオリジナルを
あなたのお手もとに



コルテスカ(スイス)ワンピース

クリスチャン・ディオール(仏)スーツ

LADIE'S

San Sakae

MOTOMACHI-1 ☎ 331-7885

GENT'S

San Sakae

MOTOMACHI-2 ☎ 331-5121